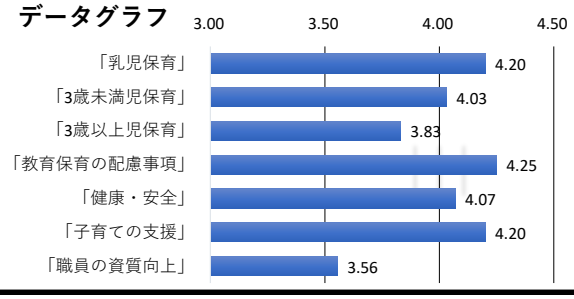
令和3　年度　　幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく自己評価

作成日	平成33年2月6日
法人名	園　名
学校法人織田学園	おだ認定こども園

まとめ	全体平均　4.00
第2章第2節 乳児期の園児の保育	保育教諭は、園児の心の動きに応答的にかかわり、日々担当の子どもたちがよりよく育つように努力しているが、さらに遊びの質を高めていくために例えば身近なものとのかかわりでは、その意味や性質、特徴などを感覚によって捉える時期なので、提供する玩具や環境設定を考えるときには、このことを十分理解し、考えて適切な環境を整えられるようにしていきたい。
第2章第3節 満1歳以上満3歳未満の園児の保育	生活の安定を基盤に特に食と睡眠を大事にしているが、5つの領域を意識した発達年齢に応じた遊び環境の充実に努めたい。
第2章第4節 満3歳以上の園児の教育及び保育	子どもが興味を示し面白いと感じたり、もっと知りたいと考えている様子をとらえながら、5つの領域を意識し幼児期にふさわしい経験と学びが生まれるようにさらに環境設定や園児の遊びの理解を深められるようにしていきたい。
第2章第5節 教育及び保育の実践に関わる配慮事項	専門職員との連携を密にしながら、保護者のニーズにも応答的でいることを大事にしている。安全安心が基盤としながら園児の自発的な活動を促進するためには、保育教諭間の協力（学年を超えて）子どもの見守りや園児の理解を深めていくことをさらに実行していきたい。
第3章 健康及び安全	安全に関しては看護師と園長が中心になりながら、ヒアリハットの活用や日々ラインワークスでの注意喚起などできるようになってきているので、さらにそのツールを有効に使っていきたい。
第4章 子育ての支援	今年度はコロナ禍で今まで行ってきたような、保育参観や行事ができず対面で保護者の様子を知ったり気兼ねなく会話をする場が少なくなってしまった。来年に向けても、コロナ以前の状況に戻るというより新しい形を工夫して改善していかれるように今から備えておきたい。
第5章 職員の資質向上	コロナ禍でオンライン研修が増えてきているので、今後もこのような研修を視野に職員の研修時間の確保と人の配置について検討していきたい。
総合	今年度はコロナ禍で計画していたことの実行ができない一年となったが、IT担当を年度当初より任命していたことにより、オンライン保育や動画配信など新しい試みが加速されよい結果を生み出すことができた。先の見通しを持ち思考していくことが大事だと実感した。また、5つの領域を視野に入れて園児の学びをさらに充実できるように環境を考えたとり組に力を入れて進めていくように努めていきたい。

データ表

内容	項目数	平均
「乳児保育」	15	4.20
「3歳未満児保育」	32	4.03
「3歳以上児保育」	53	3.83
「教育保育の配慮事項」	16	4.25
「健康・安全」	29	4.07
「子育ての支援」	15	4.20
「職員の資質向上」	9	3.56
計	169	4.00

データグラフ